国臨協関信支部 学術委員会 Q&A 入力用紙

問い合わせ		
受付日	令和　4 年　2 月　16 日	
質問者	施設名	
	氏名	
	mail	
	☎	
問い合わせ方法	☐ 電話　☑ メール　☐ その他（　　）	
質問領域	輸血	

質問内容

当院では、「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」に従い、輸血後の使用済み製剤バックは、ルートを結紮しビニール袋に入れ冷蔵庫保管することを基本としています。

しかし、１パックの輸血であればこの運用が適用できますが、緊急時など複数バックを連続して輸血するなど、初めのバックは輸血セットから外す場合も想定されます。

日赤に問い合わせしたところ、製剤から輸血セットを外してしまうと、輸血後副作用があった場合に、細菌汚染の有無の特定が困難となり、検査が出来ない可能性があるとの回答でした。

【質問】輸血後の使用済み製剤バックの保存方法や、製剤バックより輸血セットを外した場合など他施設の運用状況等を含めてご教示いただけると幸いです。

よろしくお願い致します。

回答内容		
対応日	令和　4 年　3 月　7 日	
対応者	施設名	国立がん研究センター中央病院
	氏名	竹内　紗耶香

回答内容

基本は輸血セットのルートを結紮し、抜いてしまった場合はそのまま清潔な袋で仕方がないと思います。日赤としては、開放状態の場合、結果が保証できないということでしょうが、これしかないのでそれで持って行って検査はしてくれます。

学術委員3名の施設では大量に製剤を扱っており全製剤の使用済みバッグ保管をしておらず、投与中の副作用発生製剤のみの保管となっているため、ほとんどが輸血セットありのままで保管となっております。細菌汚染の特定を目的とした保管ですので、細菌繁殖リスクの高い血小板製剤については1バッグに1輸血セット、あとは可能な限り、といった運用で検討してみてはいかがでしょうか。当然ながら、投与前のスワーリングを含む製剤の外観確認や投与時～投与後の患者観察の徹底や臨床への教育も重要かと思います。

※ 対応後1週間以内に本ファイルを関信支部までメール送付してください。

※ 記載内容については、匿名化して関信支部ホームページに掲載する場合があります。

※ お問い合わせ、ファイルの送付は下記までお願いします。

【国臨協関信支部 学術】
kanshin@kanshinshibu.org

国臨協関信支部学術	
受領年月日	令和　4　年　3　月　7　日
受領者氏名	松林　秀弥